

40年後の「生徒会長回想記」(2008年 記)

朝倉高校 昭和44年卒業
本田 俊正

朝倉高校を卒業してまもなく、学校誌「一原」の60周年特集号への原稿依頼が届き、「生徒会長回想記」のタイトルで執筆してから約40年経った今、「朝倉高等学校百周年記念誌」への原稿依頼を頂きました。

百周年記念誌編集委員会からの依頼文には、「記念誌の編纂にあたり本校の資料を繙いておりましたところ、昭和42年の記事に、生徒会長・副会長コンビとして辣腕をふるわれていたとありましたので、当時の生徒会活動やホームルーム活動等の有様を記載して頂きたく・・・」と書いてありました。

そこで、40年前の「60周年特集号」を取り出してきて、懐かしく、いくらか恥ずかしく読み終え、これから40年の歳月の重みを感じながら回顧してみます。

当時は、受験勉強とクラブ活動との両立が大きなテーマであった。

「学歴か実力か」との問いかけが社会を賑わしていたが、学歴か実力かの二者択一の問題ではないと思い、受験勉強と生徒会活動とを、それでも相当な葛藤の中でやっていった。

「生徒会活動の活性化」を目標に掲げ、ホームルームの下部討議・意見集約から活動を起こし、放課後は生徒会執行部の仲間と生徒会室でよく話し合った。

また、3年生の前期に生徒会長をやると大学受験浪人は必至で、国立大学の1期校には絶対合格しないとか言われていた。

だが、そんなジンクスがあるなら破ってやろうと思っていたので、2年生の後期から2期1年間、生徒会長をやり通した。副会長と他3人も、僕が2期目もやるならと一緒に1年間就任してくれた。

大学現役合格を目指して入学したからには、あくまで受験勉強が第一であったが、高校時代はまさに青春。そう勉強ばかりでは、体が心が反抗してくる。

だから、必然的に、スポーツに異性に動かされて行く。

帰宅後、受験勉強の体力作りも兼ね、ほぼ毎日3～4キロ走った。彼女と交換日記もした。

異性と交際したら大学には合格できないという先生もいたし、異性と高校のすぐ傍の公園にでも行こうものなら、不純異性交際と指摘されるような状況だった。

でも、生徒会執行部の大半は交際相手を持ち、そうやってそれぞれ志望大学に入っていた。

時代の転換期であったのかもしれない。

生徒会長として、勢い余って生徒総会で執行部解散宣言をやったりもしたが、次に向けての自分の可能性を開拓し掴むために、必至になって模索していた時期でもあった。

これから入って行こうとする大学は、全国どこも70年安保で学生運動の最盛期にあり、僕らの受験の年は、東大の入試が中止になった歴史的な年でもあった。

そして迎えた大学入試、受験2日目に試験会場に行くと、学生運動の活動家によって試験会場が封鎖されており、僕らは貸切バスに乗せられて、急遽近くの予備校での受験となった。

更に、大学入学式。入学式の途中で学生活動家が乱入してきて中断。

この時、活動家を排除しようと駆け上がっていった壇上で、一緒に合格した生徒会執行部の面々とバツタリ。

ここから今日までの40年が始まった。

以上